

宮崎県川南町（国内 12 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 6 年 12 月 3 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：肉用鶏（約 3.45 万羽）
家きん舎の構造（鶏舎数）：開放鶏舎（3 棟）
家きん舎の飼養形態：平飼い

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は海沿いの平野部に位置しており、周囲は田畑に囲まれていた。
- ② 調査時、発生農場の西およそ 530m に位置するため池では、カルガモ 57 羽、マガモ 1 羽を確認した。また、農場から半径 2 km 程度の範囲にある川やため池等の複数箇所でカルガモ等の群れを確認した。
- ③ 当該農場は開放鶏舎 3 棟からなり、発生鶏舎（2 号鶏舎）は 3 棟並ぶ鶏舎の中央に位置していた。

3 通報までの経緯

- ① 農場主によると、11 月 15 日に発生鶏舎（当時 26 日齢）において 13 羽の死亡が確認されたとのこと。当初は大腸菌症を疑い、翌 16 日からフルオロキノロン系抗菌薬を投与したものの死亡羽数が減少せず、21 日には死亡鶏が 473 羽に達したことから、契約食鳥企業の指導員が全鶏舎について鳥インフルエンザ簡易検査を行い、陰性を確認していた。また、同日、指導員を通じ管轄の家畜保健衛生所に連絡したが、簡易検査の結果等を踏まえ、家畜保健衛生所の指導により経過観察としたとのこと。
- ② その後も、発生鶏舎及び隣接鶏舎（1 号鶏舎）において 100 羽以上の死亡が継続したため、11 月 25 日に発生鶏舎及び 1 号鶏舎、12 月 1 日に発生鶏舎について指導員が簡易検査を行い陰性を確認していたが、12 月 2 日（43 日齢）、発生鶏舎において 777 羽の死亡が確認され、指導員が簡易検査を実施したところ陽性となったため、再度、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 調査時、発生鶏舎では殺処分が終了しており、死亡鶏等の分布状況は確認できなかったが、1 号鶏舎では、死亡鶏が鶏舎全体に確認された。農場主によると、発生鶏舎では死亡鶏が全体的に散在して確認されたとのこと。

4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、農場主と従業員 1 名がおり、通常は従業員 1 名が 3 鶏舎すべての飼養管理を行っていたが、発生鶏舎で死亡増加が確認されるようになったことに伴い、11 月 15 日以降、農場主が発生鶏舎の飼養管理を行っていたとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 当該農場には西側及び南側に入口があり、西側の入口に最も近い 1 号鶏舎にのみ立入り禁止の看板が設置されていた。西側入り口は通常使用されておらず、農場主及び従業員 1 名は専ら南側入り口を利用していた。外部車両は南側入口から衛生管理区域内に進入し、同入口に設置された動力噴霧器で車両の足回りを消毒していたとのこと。なお、従業員の車両は、衛生管理区域外に駐車し、区域内には進入しないとのこと。
- ② 農場主及び従業員は、自宅で農場内用の作業着と長靴を着用してから、車で当該農場に通勤しているとのこと。なお、当該農場は稲作を営んでおり、鶏舎の飼養管理と並行し隣接する水田での作業することがあったが、衣服の交換等は行っていなか

ったとのこと。

- ③ 外来者（指導員、飼料会社等）が衛生管理区域内に入る際は、持参した区域内用の長靴を着用するが、更衣や手指消毒は行っていないとのこと。
- ④ 農場主及び従業員が鶏舎に立入る際は、鶏舎内に設置された鶏舎専用の長靴に履き替え、鶏舎外にある踏込消毒槽（逆性石鹼、10日に1回交換）で消毒後、鶏舎内にある石灰槽を踏み、アルコールで手指消毒するとのこと。指導員が鶏舎に立入る場合は、これらに加え、防護服を着用しているとのこと。
- ⑤ 鶏舎の窓は、網目が亀甲型直径約4 cm 又は2 cmの金網で覆われており、西側の窓は全てロールカーテンでふさがれていた。金網と土台のコンクリートブロックの間には、最大で3 × 3 cm 程度の隙間が複数確認された。
- ⑥ 当該農場では、3 鶏舎同時にオールイン・オールアウトが行われており、オールアウト後は2 ～ 3 週間程度の空舎期間を設けているとのこと。オールアウトに伴う除糞搬出作業、鶏舎の洗浄・消毒は外部業者が行っていたとのこと。
- ⑦ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、閉鎖系ラインで鶏舎内に繋がっていた。
- ⑧ 給与水には、塩素消毒をした井戸水を使用しているとのこと。
- ⑨ 鶏舎と鶏舎の間の敷地には、サトイモが自生し、樹木等が繁茂していた。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、農場内の樹木においてカラス等の野鳥を見かけるとのこと。また、農場周辺でイタチを見かけるとのこと。
- ② 農場主によると、鶏舎内にはネズミ対策のため殺鼠剤を設置しているが、鶏舎内でネズミを見ることはほとんどないとのこと。調査時、鶏舎内でネズミの糞等明確なラットサインは確認されなかった。

（以上）